

生涯学習館林市民の会講座

館林城ジオラマと館林城の門 (前編・ジオラマで学ぶ)



令和4年9月22日

須永 清 (館林文化史談会)

館林城ジオラマ制作が目指したもの

- ・ 館林市の市制60周年をお祝いする
- ・ 市内外の多くの方に「館林城の城跡」や「館林城の歴史」を広く市民に知ってもらい、そして次の世代に伝える



ジオラマ制作にかかわる全情報は報告書にまとめました。

→ **館林市立図書館および近隣図書館にて閲覧可能です！**

「会員情報」をクリック



※館林城ジオラマ制作に関する詳しい情報は、右に掲載した館林文化史談会ホームページでも確認することができます。「会員情報など」のページからの[リンク](#)をご利用ください。史談会ホームページは「館林文化史談会」で検索してください。

「館林城ジオラマ制作委員会ホームページ」をクリック



会員募集 - 館林文化史談会入会のご案内 -

館林および館林に隣接する地域の文化・歴史について興味を持つ方の入会を、広く募集しています。
入会については、毎月第4土曜日、館林市立図書館2階「視聴覚室」にて午後2時より4時の間、開催している例会（研究発表報告会）で受け付けています。（年会費三千元、初年度は無料）
ご興味のある方の例会見学も自由です。（事前連絡不要ですので、直接、例会会場にお越しください。）
また、下記の館林文化史談会へのメールでも受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

館林文化史談会へのお問い合わせ

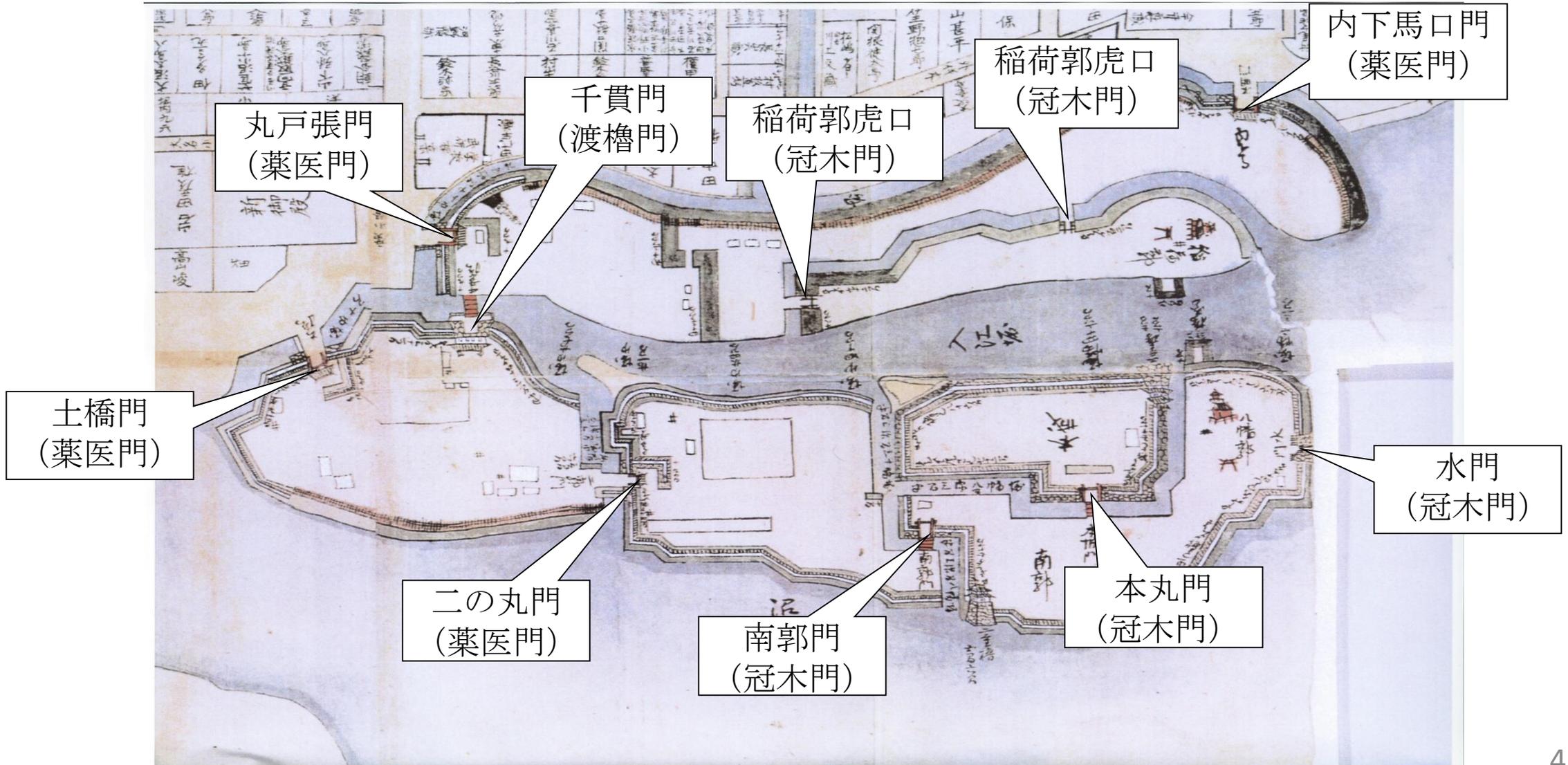
館林文化史談会へのお問い合わせはメールでお願います。頂戴したメールを確認後、メールにて回答をご連絡いたします。
[館林文化史談会へのメール](#)

リンク

- ・ [館林市公式ホームページ](#)
- ・ [館林城ジオラマ制作委員会ホームページ](#)

館林城ジオラマ見学のポイント

館林城の門を知る



ご注意 「冠木門」の表記について

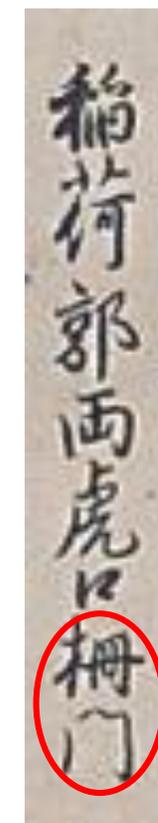
館林城ジオラマ制作当時は、江戸時代の表現に合わせて、

「薬医門」 ⇒ 「冠木門」

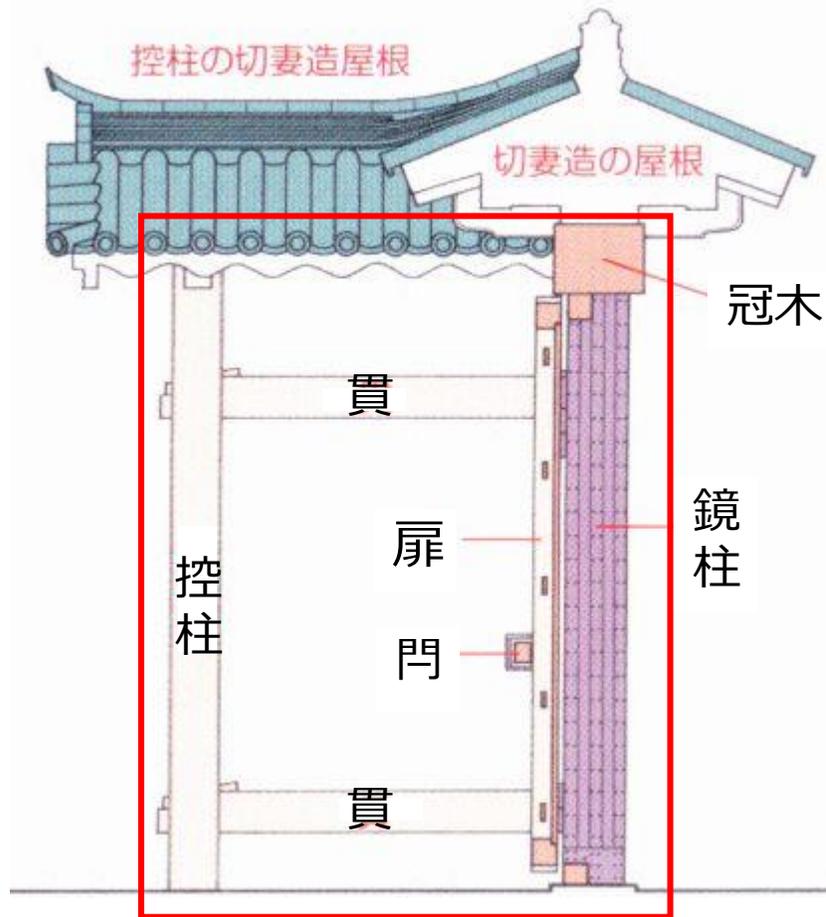
「冠木門」 ⇒ 「柵門」

と呼びました。（右の資料は、秋元家が幕府に提出した再建工事に関わる史料に記載されたものです。）

しかし、現代では基本構造だけの門（屋根のない門）を冠木門と呼びます。それ以外については個々の名称で呼ばれることが多いので、今回の説明では左の太字で書いた名称で統一しました。



城の門を知る

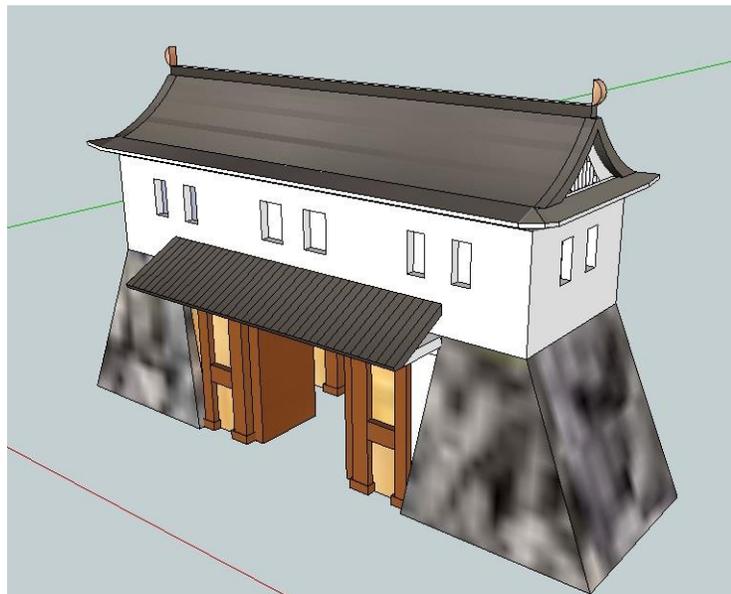


基本構造(枠の部分)

城門にはいろいろな種類がありますが、基本構造はどれも、鏡柱・冠木・控柱・貫・扉・門（かんぬき）からなります。

正面側に**鏡柱**という太い主柱を建て、その上に**冠木**という太い水平材を渡します。鏡柱の後方に転倒防止として、やや細めの**控柱**を立て、鏡柱と**貫**で連結。鏡柱の間には二枚の**扉**を取り付けます。扉には通常使用のために**潜戸**を付けることがあります。

館林城 門の形 その① 渡櫓門（わたりやぐらもん）



千貫門・立体設計図

基本構造の上に櫓を乗せた城門。階下が城門、二階が櫓となる櫓門です。両脇に石垣を従えていることが多く、二階の櫓が両脇の石垣を渡っているので渡櫓門とも言います。

城門中では最も堅固なもので、大手門や本丸正門など重要な門は必ず櫓門にします。（館林城の大手門も渡櫓門）



千貫門・ジオラマ（正面）



千貫門・ジオラマ（城内側）

館林城 門の形 その② 薬医門（やくいもん）



薬医門・立体設計図

薬医門は基本構造の鏡柱と控柱をまとめて1つの切妻造りの屋根で覆った城門です。屋根が大きく見栄えが良く、格式を重んじる場所に建てられました。

※館林城・三の丸跡の土橋門は薬医門様式で再建されましたので、ジオラマもこれに合わせて制作しました。



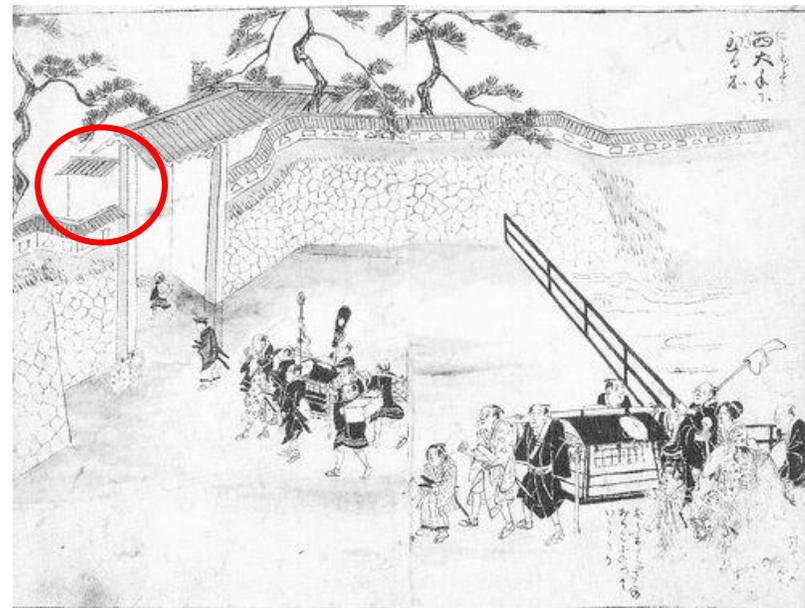
薬医門・ジオラマ（正面）



薬医門・ジオラマ（内側）

館林城 門の形 (参考) 高麗門 (こうらいもん)

高麗門・内側



(写真の高麗門は江戸城・清水門として現存)

(「お国替絵巻・西大手に至る所」の館林城大手門)

薬医門に似た形に高麗門があります。違いは屋根は冠木の上だけを覆う小さな切妻造りとなり、その屋根から外に出てしまう控柱の上には、別々に小さな屋根がかけられます。薬医門に比べて、主となる屋根が小さくなるので、屋根の下の敵味方の状況が見やすくなるという実用的な長所があります。

江戸城の主要な門は大手門をはじめとして、高麗門を入り、枡形を経て渡櫓門をくぐって入城する形です。(館林城の大手門の様式は上の絵を参照)

館林城 門の形 その③ 冠木門（かぶきもん）



冠木門・立体設計図

基本構造のみで構成され、屋根がない門です。
館林城では本丸門や八幡郭水門が櫓門、南郭門を薬医門とする計画でしたが、未完に終わりました。その代わりに冠木門が建てられており、仮設の門として使用されました。



冠木門・ジオラマ（正面）



冠木門・ジオラマ（内側）

館林城 門の形 (参考) 埋門 (うずみもん)



(写真の埋門は姫路城に現存)

埋門は基本構造を狭い石垣などの間に造り、冠木の上に土塀を通した城門で、防御性能が高いため裏門として使われました。

館林城では、八幡郭の北側から橋台へ通じる門として建造の計画がありましたが、未完に終わりました。



越智松平家が幕府に提出した館林城再建の普請図。丸印の中に「埋門」と書かれています。

館林城の門・復習

館林城・土橋門（薬医門）の構造を確認



門の表と裏 鏡柱・扉・
門・潜戸



控柱・貫



切妻の屋根が鏡柱と控柱を
覆うようにに乘せられてい
ます。

旧館林城の門の現在地

※参考「館林城郭・城下町図—古環境復元図—」



: 渡櫓門



: 薬医門



: 冠木門

旧館林城の門の現在地

※参考「館林城郭・城下町図―古環境復元図―」

- 土橋門 : 三の丸の現在地（今より少し外側）
- 丸戸張門 : 城町のセブンイレブン前の交差点付近
- 千貫門 : 市役所北側駐車場の北西側の車庫付近
- 稲荷郭虎口 : （西向）館林女子高グラウンド中央付近
- 稲荷郭虎口 : （北向）尾曳稲荷神社入口の道路上
- 内下馬口門 : 尾曳稲荷神社北側の道の突き当りの右手道路上
- 八幡郭水門 : つつじが岡第二公園の花菖蒲園の中にある小屋付近
- 本丸門 : 本丸南の土塁が切れた付近
- 南郭門 : ゆめ広場中央の金木犀の木の西付近
- 二の丸門 : 市役所玄関前のロータリー付近

旧館林城の未完成の門

- 本丸門 : 冠木門⇒渡櫓門 (改築)
- 八幡郭水門 : 冠木門⇒渡櫓門 (改築)
- 南郭門 : 冠木門⇒薬医門 (改築)
- 八幡郭埋門 : 未着手

(現在の秋元別邸の北側道路からの入口付近)

引き続き、第一資料館でジオラマを見ながら．．．の予定でしたが、第一資料館は次回展示の準備中ということで、ジオラマを見ることができません。誠に申し訳ありませんが、ビデオを使って説明させていただきます。

出典：館林城関連城絵図 館林市史 特別編第2巻 絵図と地図にみる館林 (館林市史編さん委員会編)
城門の説明内容 城のつくり方図典 (著作：三浦正幸、出版：小学館)
お国替え絵巻 館林市史 資料編3近世I 館林の大名と藩政 別冊付録
(館林市史編さん委員会編)

